# OMi Management Pack for Infrastructure

ソフトウェアバージョン: 2.00

HPE Operations Manager i (LinuxおよびWindows® オペレーティングシステム)

# リリースノート

ドキュメントリリース日: 2017年1月 (英語版)
ソフトウェアリリース日: 2017年1月

Hewlett Packard Enterprise

# ご注意

## 保証

Hewlett Packard Enterprise製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、Hewlett Packard Enterpriseはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

## 権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、Hewlett Packard Enterpriseからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

## 著作権について

© 2017 Hewlett Packard Enterprise Development LP

## 商標について

Adobe™は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

本製品には、'zlib' 汎用圧縮ライブラリのインターフェイスが含まれています。Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

# ドキュメントの更新情報

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかについては、次のWebサイトをご覧ください。https://hpln.hpe.com/

このサイトのご利用には、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDを登録するには、HPEソフトウェアサポートサイトで [**HPEパスポートに登録**] をクリックするか、HP Passportログインページで [**アカウントを作成してください**] をクリックします。

# サポート

このドキュメントでは、HPE Live Networkコミュニティコンテンツについて説明します。Hewlett Packard Enterprise Softwareは、コミュニティコンテンツのテスト、認証、サポートを行っていません。サポート、設定、または使用方法に関する質問がある場合は、HPE Live Networkのコミュニティコンテンツディスカッションフォーラムをご利用になるか、コミュニティコンテンツの元の送信者に直接お問い合わせください。ご使用の環境にコミュニティコンテンツを適用する前に、関連するすべてのOMi Management Pack for Infrastructure ファイルをバックアップしてください。

# 目次

OMi Management Pack for Infrastructureリリースノート ..... 4
リリース2.00の新機能 ..... 5
仮想インフラストラクチャー監視の更新 ..... 5
システムインフラストラクチャー監視のエンハンスメント ..... 5
インストールについて ..... 8
既知の問題、制限事項、回避策 ..... 9
既知の問題と回避策 ..... 9
制限事項 ..... 11
ドキュメントの更新情報 ..... 12
ローカライズとグローバライズ ..... 12
ドキュメントのフィードバックを送信 ..... 14

# OMi Management Pack for Infrastructure リリースノート

HPE Operations Manager i (LinuxおよびWindows® オペレーティングシステム)向け

**ソフトウェアバージョン:** 2.00

**発行日:** 2017年1月 (英語版)

本ドキュメントは、HP OMi Management Pack for Infrastructure 2.00 (OMi MP for Infrastructure 2.00) に加えられた変更の概要について説明しています。ここでは、マニュアルやオンラインヘルプに記載されていない重要事項についての情報を記載していします。このドキュメントの構成は次のとおりです。


このリリースの新機能

インストールについて

既知の問題と回避策

ドキュメントの更新情報


# サポートマトリックス

インストール要件および他の製品との互換性については、OMi Management Pack for Infrastructureサポートマトリックスを参照してください。サポートマトリックスはリリースごとに更新される場合があるので、下記のHPEソフトウェアサポートオンラインWebサイトでのみ閲覧が可能です。

http://support.openview.hpe.com/selfsolve/document/KM323488

# リリース2.00の新機能

OMi MP for Infrastructure 2.00で利用できるエンハンスメントを次に示します。

## 仮想インフラストラクチャー監視の更新

**X86仮想化テクノロジーの進化**

OMi MP for Infrastructure 2.00は、X86仮想化の監視をサポートしません。HPEでは、VMware vSphere、KVM、Xenなどのx86仮想化テクノロジーの監視には、HPE Cloud Optimizerの監視専用エディションを使用することを推奨します。これらのテクノロジーに関連する管理テンプレート、アスペクト、ポリシーは、OMi MP for Infrastructure 2.00バージョン以降は利用できません。

x86仮想化テクノロジーに対しては、HP Operations Agent 11.1xのサポートが終了するまで、OMi MP for Infrastructure (2.00より前のバージョン) の仮想化コンポーネントを引き続き使用できます。一方、x86以外の仮想化テクノロジー (HPVM、AIX、Solaris) に対しては、OMi MP for Infrastructureを引き続き使用できます。

HPE Cloud Optimizerへとテクノロジーが進化したことにより、次のような利点が得られます。

- スケーラビリティと相互運用性の向上
- 対応メトリック範囲の拡大

テクノロジーの進化により、これまでと同等の機能をHPE Cloud Optimizerで使用できるだけでなく、HPE Cloud Optimizerのプレミアムエディションを利用することで、より適切にパフォーマンスのトラブルシューティングを行ったり、物理、仮想、クラウドの容量を最適化したりすることができます。詳細については、HPE Live Networkをご覧ください。

OMi MP for Infrastructure 2.00は、Linuxプラットフォーム上のAmazon Web Servicesを監視できます。

## システムインフラストラクチャー監視のエンハンスメント

**プロセスの監視**

必要なすべてのプロセスおよびプロセスグループをUNIXプラットフォーム上でのみ監視します。Sys_ProcessMonitorおよびSys_ProcessMonitorConfigポリシーが**重要システムサービス可用性**アスペクトに追加されています。アスペクトを配布する前に、すべてのプロセスおよびプロセスグループをSys_ProcessMonitorConfigポリシーに指定する必要があります。

**適応しきい値設定**

適応しきい値は、ポリシーに指定された固定のしきい値を使用する代わりに、インフラストラクチャーリソースのパフォーマンス特性と使用パターンの履歴レコードに基づいて最適なしきい値を判定するために用いられます。適応しきい値を使用するポリシーは、過去1時間のメトリックの平均値を計算します。この平均値は、過去4週間の同じ時間または日の期間に収集されたデータと比較されます。値が大幅に異なる場合、ポリシーはアラートを生成します。

ポリシーに設定された固定のしきい値は、シナリオによっては最適な場合もありますが、そうでない場合もあります。インフラストラクチャーリソースのパフォーマンスを改善するには、環境の種類に応じてしきい値を変更する必要があります。分散システム環境は、通常、長期にわたって予測可能な傾向に従います。適応しきい値を使用すると、過去数週間のパフォーマンスデータに基づいて、しきい値が自動的に計算されます。

適応しきい値を使用するポリシーを管理ノードに配布すると、適応しきい値スクリプトによって履歴サンプルからベースラインが設定されます。ポリシーは、過去4週間の同じ日および同じタイムスロットに収集されたメトリックの値を記録しています。これは履歴データまたはベースラインデータと呼ばれます。サンプルデータは、HP Embedded Performance ComponentまたはHP Performance Agentから収集されます。これらのサンプルを使用すると、インフラストラクチャーのパフォーマンスの過去の傾向を把握することができます。この傾向に基づいて、しきい値の範囲が自動的に計算されます。

**構成変更の監視**

CCI監視ポリシーは、ファイル、Windowsレジストリ設定、コマンド出力の変更を監視します。監視の対象となるすべての構成の変更は、構成ファイルポリシーまたは構成ファイルccilist.cfgに追加できます。このファイルは次の場所にあります。

**Windowsの場合:**

%OvDataDir%\conf\ccimon\configuration

**UNIXの場合:**

var/opt/OV/conf/ccimon/configuration

CCI監視ポリシーは、実行のたびにccilist.cfgファイルを読み取って、ファイル、Windowsレジストリ設定、コマンド出力に変更がある場合にアラートを送信します。

適切な状態の監視

適切な状態の監視は、ccilist.cfg構成ファイル内のファイル、Windowsレジストリ設定、コマンド出力を監視します。

適切な状態の監視は、配布されると、ccilist.cfg構成ファイル内の==をチェックして、構成ファイルに追加されたファイル、Windowsレジストリ設定、コマンド出力を、対応する参照ファイル(ゴールドファイル)と比較します。監視対象のファイル、Windowsレジストリ設定、コマンド出力に変更があった場合は、アラートが生成されます。

詳細については、『OMi MP for Infrastructureユーザーガイド』を参照してください。

**リアルタイムアラート**

RealtimeAlertsポリシーは、CPU、ディスク、メモリ、ネットワークのボトルネックを監視します。これらのパラメーターのしきい値は、リアルタイム構成ポリシーに定義されています。しきい値の違反が起きると、運用環境のダウンタイムを防ぐため、ただちにシステム管理者にアラートメッセージが送信されます。

> **注：** RealTimeAlertsポリシーがリアルタイムデータを取得するためには、HP Operations AgentノードでRTMAライセンスを有効にする必要があります。

詳細については、『HP Operations Smart Plug-in for Systems Infrastructure ユーザーガイド』を参照してください。

**ログファイル監視のためのセキュリティポリシー**

- AIX、HPUX、Solaris、Linuxの不正ログインとシステムログの監視が強化されました。
- AIX、HPUX、Linux、Solarisでのログイン監視が可能になりました。
- SolarisでのSNMPログの監視が可能になりました。

**エネルギーデータ収集**

収集の開始/停止は、HP Operations Agentバージョン12.xが動作しているシステムからメトリックを収集するためのツールです。このツールは、複数の仮想マシンがインストールされている物理マシンのエネルギー使用状況を測定します。収集の開始/停止ツールは、WindowsおよびLinuxプラットフォームでのみサポートされ、HP Integrated Lights-Out (iLO) が物理サーバーにインストールされている場合にのみ機能します。

詳細については、『OMi MP for Infrastructureユーザーガイド』を参照してください。

**Operations Agentセルフモニタリング**

アクションエージェント、外部モニター、SNMPトラップインターセプター、重要なOperations Agentプロセス、メッセージインターセプター、ログファイルエンカプスレーターを監視するためのエージェントポリシーが付属しています。

**パフォーマンス収集コンポーネント**

AIX、HP-UX、Solaris、Linux、Windowsで、Operation Agentsのparm、alarmdef、hpsensor構成ファイルと、対応するメッセージインターセプターポリシーを集中管理するためのポリシーを含むアスペクト。

# インストールについて

OMi MP for Infrastructure 2.00は、HPE LiveNetworkで入手できます。英語と英語以外のロケール環境用のパッケージが用意されています。ロケールの要件に基づいて、適切なインストールメディアを使用できます。OMi MP for Infrastructure 2.00のインストールの要件と手順の詳細については、『OMi Management Pack for 2.00 Infrastructureインストールガイド』を参照してください。

次の表に、OMi MP for Infrastructure 2.00の関連ドキュメントの情報を記します。

| ドキュメント | 場所 | 目的 |
|---|---|---|
| インストールガイド | HPE Live Network<br>https://softwaresupport.hpe.com | 次の情報を提供します。<br>• Salient機能<br>• インストールについて |
| リリースノート | HPE Live Network<br>https://softwaresupport.hpe.com | |
| オンラインヘルプ | OMi 10.xコンソールの?メニューから利用可能<br>OMiコンソールで、? **> [全般的なヘルプ] > [管理ガイド] > [管理パック] > [OMi Management Pack for Infrastructure]** をクリックします。 | 次の情報を提供します。<br>• はじめに<br>• インフラストラクチャー管理テンプレート<br>• インフラストラクチャーのアスペクトおよびポリシーテンプレート<br>• パラメーター<br>• ビュー<br>• 状況インジケーター<br>• イベントタイプインジケーター<br>• TBECルール<br>• ツール<br>• グラフテンプレートまたはパフォーマンスダッシュボード |
| ユーザーガイド | HPE Live Network<br>https://softwaresupport.hpe.com | |

# 既知の問題、制限事項、回避策

各不具合の参照番号は、変更要求 (QCCR) 番号です。未解決の不具合の詳細については、HPEソフトウェアサポートオンラインをご確認いただくか、HPEサポートの担当者に直接お問い合わせください。

# 既知の問題と回避策

以下に、OMi MP for Infrastructure 2.00の既知の問題と回避策を示します。

**QCCR1A150953:** 複数の類似したノードまたはFileSystemが検出された場合に、FileSystem構成アイテム (CI) 同士を区別できません。

**回避策:** 複数のノードのFileSystem CIを区別するには、次の手順を実行します。

1. **[管理] > [RTSM管理] > [モデリング] > [CIタイプマネージャー]** をクリックします。
2. [CIタイプマネージャー] ウィンドウで、[CIタイプ] ペインから **[管理対象オブジェクト] > [構成アイテム] > [インフラストラクチャー要素] > [ノード要素] > [ファイルシステム]** をクリックします。
3. 右ペインで、[**標準設定ラベル**] タブをクリックします。
4. CIタイプのラベル定義形式で、**user_label**を**mount_point|root_class**に追加します。

   例: `user_label|mount_point|root_class`
5. [**保存**] をクリックします。

---

**QCCR1H90348:** 仮想インフラストラクチャー検出で検出されたCIのデータがIBM HMCtoposyncによって設定されません。

**回避策: product_name_enum**列挙に製品名**ibm_power_hypervisor**を追加する必要があります。製品名を追加するには、次の手順を実行します。

1. **[管理] > [RTSM管理] > [CIタイプマネージャー] > [CIタイプ] > [システムタイプマネージャー]** をクリックします。[システムタイプマネージャー] ダイアログボックスが開きます。
2. **product_name_enum**をダブルクリックし、[**適用**] をクリックします。更新リスト定義が表示されます。
3. **ibm_power_hypervisor**をリストに追加して、[**OK**] をクリックします。

---

**タイトル:** DebianおよびUbuntuノードでシステムインフラストラクチャー検出が失敗します。

**説明:** DebianおよびUbuntuノードでシステムインフラストラクチャー検出が失敗します。

**回避策:** この問題を解決するには、対応ノードに関連するCIを適用し、BSMサーバーで以下の手順を実行します。

1. **Linux_Deb**という名前のフォルダーをBSMサーバーの次の場所に作成します。

   **Linuxの場合:**
   `/var/opt/OV/shared/server/tmp/deployment/instrumentation/SystemsInfrastructure/Unix`

   **Windowsの場合:**
   `%OvDataDir%\shared\server\tmp\deployment\instrumentation\SystemsInfrastructure\Unix`

   > **注:** BSMサーバー上で上記のフォルダーが使用できない場合、最初に**システムインフラストラクチャー検出**をDebian以外のノードにデプロイしてから、手順を進めます。

2. **GetLogfileName.sh**および**ispi-ovperl**ファイルを`/var/opt/OV/shared/server/tmp/deployment/instrumentation/SystemsInfrastructure/Unix/Linux`フォルダーから**Linux_Deb**フォルダーにコピーします。

   **Linuxの場合:** `cp Linux/* Linux_Deb/`

   **Windowsの場合:** `copy Linux\* Linux_Deb\`

3. **システムインフラストラクチャー検出**アスペクトをノードにデプロイします。
4. ノードの次の場所にファイルが存在するかどうかを確認します。

   `/var/opt/OV/bin/instrumentation`

   システムインフラストラクチャー検出が正常に実行されれば、対応ノードに関連するすべてのCIがランタイムサービスモデル(RTSM)に表示されます。

---

**タイトル:** OMi MP for Infrastructureのサービス検出で、マウントポイントのフォルダーパスからバックスラッシュが削除されます。

**QCCR8D38632:** ドキュメントが存在しないため、エンドユーザーがKVM監視をセットアップできません。

**回避策:** なし。

---

**QCCR8D38633:** VMノードCIをコンテキストとして使用してKVM VMメトリックをグラフ化することができません。

**回避策:** なし。

---

**QCCR8D43248:** Sys_LinuxKernelLog 1.0が同じ問題に対して生成するイベントが多すぎます。メッセージキーを調整する必要があります。

**回避策:** なし。

---

**QCCR8D44434:** パフォーマンスアラートの使用率アラートが、アラート条件を繰り返し表示します。

**回避策:** なし。

---

**QCCR8D46191:** 詳細システム管理テンプレートから生じる初期化とVBScriptの失敗を修正する必要があります。

**回避策:** なし。

---

**QCCR8D49163:** ファイルシステムの領域使用量で間違ったデバイスが監視され、誤ったアラームが生成されます。

**回避策:** なし。

---

**QCCR8D49171:** FileSystem監視がアプリケーション属性をDHCPに設定します。

**回避策:** なし。

---

**QCCR8D50871:** マウントされたCDROMから重要警戒域のイベントが発生します。

**回避策:** なし。

---

**QCCR8D50871:** MP for Infrastructureのサービス検出で、マウントポイントのフォルダーパスからバックスラッシュが削除されます。

**回避策:** なし。

---

**QCCR8D51142:** Operations Agentノードに、OMi MP for Infrastructureの2.00より前のバージョンから配布されたポリシーがある場合、割り当てを削除してもポリシーが削除されません。

**回避策:** なし。

---

# 制限事項

- 上位のリソースプールのユニバーサル一意識別子 (UUID) の取得に失敗すると、ネストされたリソースプールが検出されない場合があります。詳細については、**QCCR1A162251**を参照してください。

# ドキュメントの更新情報

このドキュメントの最初のページには、以下の情報が記載されています。

- このソフトウェアのバージョン番号
- ソフトウェアリリース日

更新状況の確認や、ご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、HPEソフトウェア製品マニュアルWebサイトをご利用ください。

ドキュメントを入手するには、以下を選択します。

1. **製品**名
2. **製品バージョン**リスト
3. **オペレーティングシステム**
4. 使用する**言語**
5. 表題
6. **[開く]** または **[ダウンロード]** をクリックします。

PDF形式のファイル (*.pdf) を表示するには、Adobe® Readerをインストールしておく必要があります。Adobe ReaderをダウンロードするにはAdobeのWebサイトにアクセスしてください。

# ローカライズとグローバライズ

ローカライズとは、特定のローカルマーケットまたはロケールにソフトウェアアプリケーションを適合させるプロセスのことです。グローバライズとは、グローバルマーケット向けに製品またはサービスを設計して、わずかな修正だけで世界中に販売できるようにするプロセスのことです。

HPEでは、次の言語に対応したOMi MP for Infrastructure 2.00ソフトウェアを提供しています。

- 英語
- 日本語
- フランス語
- スペイン語

- 簡体字中国語
- 韓国語
- オランダ語
- ロシア語

OMi MP for Infrastructure 2.00のドキュメントは英語ロケールでのみ利用可能です。

# ドキュメントのフィードバックを送信

このドキュメントに関するご意見がある場合は、電子メールでドキュメントチームに連絡することができます。システムに電子メールクライアントが設定されている場合は、上記のリンクをクリックすると、電子メールウィンドウが開き、次の情報が件名行に入力されます。

**Feedback on リリースノート (OMi Management Pack for Infrastructure 2.00)**

電子メール本文にフィードバックを記入して送信してください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をWebメールクライアントの新規メッセージにコピーして、docfeedback@hpe.comまでフィードバックを送信してください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。